

【現代語訳】

紅葉の橋の袂たもとから、わたしの思いをあなたに渡すには、

両手の袖そでをこうやって垣かき合わせて、

垣根越かきねしに、歌垣うたがきのように言伝ことづつての恋文こいぶみを渡すのです。

ねえ、ちよつと私の恋に耳を貸して下さいよ、鵲かみどりさん、

あなたの下しも（下腹したばら）は白いけど、霜しももいつしか白々と秋しゅうを深め、

雪ゆきとなって積つもるほどに、積つもる思いがなお深くなつたわ。

だから、雪ゆきが空そらをめぐつて舞い落ちるように、

私も舞まの手てを巡めぐらせて踊りましょう。

ヨイヨイ、ヨイヨイ、ヨイヤサー

〔注〕青字は「掛詞」やゴロ合わせとなっている。



補注

両の手の袖を合わせてアーチのようにするしぐさは、カササギが広げた羽をアーチのようにすぼめるしぐさであり、その形が太鼓橋のアーチのように川の岸から向こう岸へ渡す様を表現している。